



ナミビア通信

JICA 青年海外協力隊
2023 年度 I 次隊
エロンゴサ小学校
吉野 葵
2024 年 11 月 第 19 号

平山小学校のみなさんこんにちは。ナミビアの小学校で先生をしている吉野です。

ナミビアでは、毎年9月に「ヘリテージウィーク」と呼ばれる1週間があります。「ヘリテージ(Heritage)」とは、「継承物(未来に残すべきもの)」という意味があり、その名の通り、「ナミビアの伝統文化継承週間」です。今年は9月16日(月)から22日(日)までが、その「ヘリテージウィーク」でした。この期間に合わせて、エロンゴサ小学校でも伝統文化継承のイベントが開かれました。ナミビアは日本とは違って、様々な異なる民族が一緒に過ごしている国です。日本では、日本人はほとんどの人が日本語を使っていますが、ナミビアではそうではなく、それぞれの民族がそれぞれの文化をもち、それぞれの言語を話しています。同じナミビア人でも、民族によって異なる言語を話しているのです。異なる民族の人同士がコミュニケーションを取るためには、アフリカーンス語と呼ばれる言語や、公用語(皆が使える言語)の英語が使われています。以前に「この国で暮らしているだけで、2種類または3種類の言語をマスターできるなんて、すごくラッキーな環境だ」と、ナミビア人の友人が話していました。たしかにラッキーなのかもしれませんが、それでも2つ3つの言語を難なく使い分けて生活できているナミビア人は本当にすごいなと感心します。

今回は、エロンゴサ小学校での伝統文化継承イベントの様子とともに、ナミビアの様々な民族についても紹介していきたいと思います。

ヘリテージウィークの学校行事

① それぞれの民族衣装で登校

普段は制服や体操服で登校している子供たちですが、このイベントの日だけは民族衣装で登校してよい日です。皆それぞれの民族の伝統的な衣装を着たり、装飾品(ぼうし、つえなど)を持って来たりしています。同じ民族の衣装でも少しずつデザインが違って、個性あふれる衣装を見ているだけでも楽しいです。



私の住んでいる家のオーナーさんが、私のために「オバンゴ族」という民族の伝統衣装「オバンゴドレス」をオーダーしてプレゼントしてくださいました。本当は日本の浴衣を着て行こうと思っていましたが、せっかく民族衣装をいただいたので着るしかない!ということで、着てきました。

②民族グループごとの発表

※実際ナミビアには10を超える民族グループがあります。



【ダマラ族】

ナミビアの人口の約7パーセントを占めていて、私の住んでいる町ウサコスの中では最も多い民族です。独立前はダマラランドと呼ばれる地域に住んでいました。男女でペアになってステップを踏む踊りが特徴的です。ダマラ族の言語にはクリック（舌打ちのような）音が使われていて、4種類のクリック音を使い分けているのですが、私には違いがさっぱり分からずとても難しいです。

【オバンボ族】

ナミビアの人口の約半分を占めているといわれています。独立前はナミビア北部のオバンボランドと呼ばれる地域で生活していた民族です。明るいピンクの衣装が特徴的で、手を叩いたりステップを踏んだりしてリズムをとり、それに合わせて1人または2人ずつで踊ります。オシワンボと呼ばれる言語を話しています。



【カバンゴ族】

ナミビアの人口の約9パーセントを占めているといわれています。ナミビアとアンゴラの国境の一部にもなっていて、ボツワナまで続いているカバンゴ川（ボツワナではオカバンゴ川と呼ばれる）の周辺に住んでいた民族です。かけ声のようなものから始まり、打楽器でリズムをとりながら、それに合わせて数人ずつが前に出て、様々な道具を使ったパフォーマンスを見せます。

③伝統料理の持ち寄り

民族衣装や伝統的な踊りなどのパフォーマンスなどの他に、伝統料理を持ち寄る子もいます。今年は、ナミビアの大統領選挙の影響で学校の期間が短縮になり、イベントも小規模になったため、食べ物を持って来る子はほとんどいませんでしたが、去年はたくさんの子がそれぞれの伝統料理を持ち寄っていました。



私は、あんこ入りの団子を作って先生方や子供たちに食べてもらいました。ナミビアには団子のようなモチモチとした食感の食べ物はなく、粒あんは日本人でさえ好き嫌いが分かれるので少し心配でしたが、皆おいしいと言ってくれました。